

二十歳の誓い

一人っ子の私は、この世に生を享けてからずっと、大切な家族に囲まれ、まるでそれが当たり前のように歳を重ねてきました。家族が急にいなくなるなんて、当時の私はこれっぽっちも想像していなかったし、そんなことはドラマや映画の中だけの話だと信じて疑いもしませんでした。しかし、私が中学2年生の夏、大好きだった父が交通事故でこの世を去りました。「当たり前の幸せなんてない」そう痛感した瞬間でした。

父が亡くなってからの私は、心から笑うことも忘れ、いつも後悔の念に苛まれていました。15年で別れることがわかっていたら、父との時間をもっともっと大切にできたのに。そんな負のスパイラルに迷い込んでいた私ですが、家族の存在に支えられ、なんとか日常生活を送っていました。

そして一年後に大きな決断をしたのです。このままではだめだ、自分を変えたい、私は家族と離れて高校生活を送ることを決めました。ニュージーランドの高校へ進学したのです。現地のホームステイ生活を通して、「ただいま」「おかえり」「行ってらっしゃい」と当たり前に行っていた会話が、どんなに私の支えとなっていたのか、そしてあまり思い出さないようにしていた父と過ごした日々が、私をどれだけ支えてくれていたのか、家族の大切さを身にしみて実感していきました。

留学生生活を始めた当初は、英語を使ってコミュニケーションをとることが怖くて、自分から積極的にクラスメイトに声を掛けることもできずにいました。しかし、あることがきっかけで、私の留学生活は一変しました。それは、私が京都出身で、祖父が京友禅の伝統工芸士だと拙い英語でスピーチをしたあの英語の授業でした。クラス中が、京都や着物について私にたくさんの質問を投げかけてくれました。その大半は、今まで私が全く考えもしなかった、着物を作る技術、柄の細かさ、色の鮮やかさを褒め称えるものばかりでした。京都の伝統が、京友禅が私の留学生活を楽しいものに変えてくれたのです。

今、私が身に纏っている着物は、父が最後にデザインしたものです。世代を超えて人々に驚きと感動を与えられる京友禅という文化を、英語をはじめとする様々な言語を通して、世界中に発信していきたいです。そして、大切な人と過ごす日々を疎かにせず、私らしく前を向いて笑顔でこれからの人生を歩んでいくことを、二十歳の誓いといたします。

今日は私たちのためにこのような盛大な記念式典を開催いただきましてありがとうございます。

心からお礼を申し上げます。

平成30年1月8日 新成人代表 辻 晏奈